

## 起業の鉄則研究会(リーダー: 小林宏至常任理事)

平成 26 年 2 月 8 日(土) 14 時から大阪駅前第一ビル 11 階神戸大学学友会大阪凌霜クラブにて講師ともで 29 名が参加し、本年度第 7 回目(通算 107 回目)の起業の鉄則研究会を開催。参加者は、行政書士、出版関係者、不動産業経営者、ネットでのマッチング事業支援家、カラーコーディネーター、飲料事業者、経営コンサルタント、易学者、人材派遣会社、生命保険会社員をはじめ多彩な業種の経営者などが集まり、女性のならでは結婚、育児を克服しながらの高い壁を乗り越えつつ、事業を切り開いていくエピソードに参加者の方々は熱心に聞き入った。講義終了後も、ビジネスモデルなど参加者から活発な質問が行われた研究会となった。

### ◆【第 1 部】

#### 「起業とビジネスの継続-ワークバランスの視点」

講師: 株式会社アル・コネクションプロダクツ 代表取締役 中西 理翔 氏

- ・大阪北浜で、着物姿の香のいい凛とした、ステキな女性とすれ違った。直感的にこういう女性になりたいという憧れになった。
- ・大阪の船場で、初めて割烹料理店を開業。父の友人との共同経営でスタート。若さで勢いがあったので、お客が 1 ヶ月に一度はきたくなるような、とびっきりの料理を出す店にしたかった。メニューはすべてオリジナルにし、熊本の馬刺しなど、よい食材があれば、現地に直接交渉に行くほどだった。女性で若いことのもあって、当時の板前さんには軽くあしらわれるような悔しく、つらい経験も多かった。でも、当時から頂いた名刺の裏に、その方の好みなどをいっぱいメモして、データベースにし、できるだけ心のこもった接客を心がけた。
- ・結局、店舗運営での食い違いから共同経営者とケンカ別れになった。
- ・虚脱感やさびしさで、途方にくれたが、主人の仕事を手伝うつもりで、現在の会社の起業を決意。振り返れば、この時期は主婦デビュー、ママデビュー、経営者デビューと、3 つの出来事が同時に重なった。
- ・当初はコンビニのローソンのように、365 日仕事という状況で、思考錯誤するなか、気づきがあった。普通のスーパーの買い物に子供と一緒にいったのに、子供がまるで、ディズニーランドにでも行ったかのようにしゃいでいる。その姿を見て、このままの生活を続けたら、女性として、母として後悔する、と思った。そこから、経営を学ぼうと強く考え、勉強した。
- ・事業内容では、ケータイ向けのカロリー計算アプリを開発したところ、ヒット。当時は 3 年に 1 度ビジネスモデルを作るペースだったが、今では 1 年に 3 つのビジネスモデルを考える状況である。
- ・IT 業界は専門性が進んでおり、分業化している。特徴ある強みを持っていないと生き残れない。だから、年は若い、スキルをもっている若者がパソコン 1 つで、力をつける業界でもある。
- ・ビジネスは最後は人で決まる。人材教育、異業種とのコラボに力を入れている。普段は iPhone ひとつで仕事をしているが、定期的に従業員とあって、どんな表情をしているか、顔をみて、肌感覚で感じることを気をつけている。経営者としては徳が大切。徳を積んでいきたい。
- ・朝 4 時に起きて、ひと仕事してから、家族の朝食の準備をしている。

## ◆【第2部】

### 「看護師社長が目指す在宅介護～起業から10年そしてこれからの想い～」

講師：ピースクルーズ株式会社 田中 知世子 氏

- ・看護師から起業する方はまだ少ない。認知症の方が増えている。現状の介護施設での利用者の方のそういった方々への対応について、人生最後の時期にこんなことではいけないと感じていた。
- ・大阪の天下茶屋の商店街の魚屋さんの前に間借りしてピースクルーズを開業。しかし、看護師の離職率は20%と高い。長く続けていただけないのが現状である。女性は細かい部分がよく見えてしまう。男が男に惚れるということは聞くが、女が女に惚れるというのはあまり聞かない。女性経営者は(従業員から見ると)やりづらいのかもしれない。
- ・企業理念を「共生同行」、共に生きて共に行こうよ！という想いをこめている。
- ・設立当初は、一緒についてきてくれていた23歳だった現在の取締役と、頭にハチマキをして自転車をこぎながらスタートした。年を重ねていくなかで、同じような問題でも質が違ってきている気がしている。経営者としては時間という一番大切なものをかけて私についてきてくれる従業員たちに責任を感じている。

※ピースクルーズグループのプライベートビデオ観賞。

小林塾長より、今回はお二人のモーレツな女性経営者のお話を聞かせていただいた。中西様は朝4時に起きてがんばるモーレツさ、田中様の話を聞いて死というものの準備も必要だと感じた。今、日本では国が老後の面倒をみる。しかし、昔は子供が親の面倒をみていたのに、大きく変わってしまっている。動物でも家族の面倒をみるのにという気持ちである。中西様がされてきたような苦労を自分は今もしている。苦労というのは枕木のようなものである。しかし、苦労をしても誰かに喜んでもらえないと、むなしいものでもある。

終了後、近くのビアホール「キリンケラーヤマト曾根崎店」にて懇親会がもたれた。懇親会では、中小企業者が経営者としてぶつかる壁にどう行きあつていくか、次々に現れてくる困難を困難ではなく、チャンスと感じて取り組む発想法、近況交換など率直に意見交換。今後の指針のヒントを得ることも多い場となった。

次回は3月8日、神戸会場にて開催予定。